

◆特集 日本労働運動の劣化をいとおめる

労働現場からの声 若手職員からみえる労働組合

高知県職員連合労働組合組織部長

門脇 忍

若手職員の組織率の低下

私が所属する高知県職員連合労働組合は、20年以上前の当局による組合弾圧を機に脱退がはじめて以降、組織率が徐々に低下し、現状では5割程度まで落ち込んでいます。組合員が減ったことで、分会や青年部等の評議会での活動も低調となり、新採者の組織化についても厳しい状況が続いています。

例年200人を超える新採者の初年度の組織化率は2割強にとどまっており、2年目に3割に届くかどうか、ここ数年の傾向です。若手職員の組織率が相対的に低く、職場にいる身近な先輩の多くが未加入者のなかで、組合説明に理解は示しても加入を躊躇する新採者が一定数います。

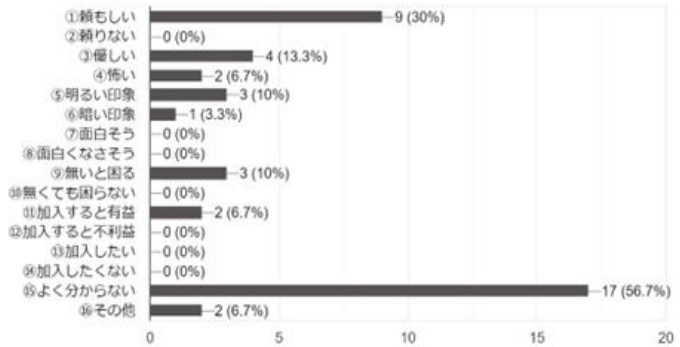
苦戦している組織化ですが、その取り組みの過程で、若手職員が組合をどう見ているのかを垣間見る機会があります。

組合へ加入するとお金や時間を奪われる？

ひとつは若手職員が組合を嫌悪する要素です。この間の組織化の取り組みを経て、新採者や若手職員のなかには「加入するとお金や時間を奪われる」のような受け止めをしている人が少なからず存在していると感じています。若手組合員から聞いた同期飲み会での話として、高校在学中の消費者センター等を招いた授業で、詐欺行為等を対象に「すぐ信用してサインしてはダメ」の教育を受けている。そのイメージがあるところに、組合説明会で「加入させよう」との圧力を強く感じ距離を置きたくなったとの声が、加入・未加入の違いなく出されたとのこと。

近隣の労組役員からは「説明会で説明を完璧に行ったが加入が伸びなかった。なぜかと思ひ、後の交流会時に新採者に『説明はぶっちゃけどうやった？』と感想を聞くと『正直、詐欺師に見えました』との辛辣な返しに

1. 労働組合に関するあなたの意識に当てはまるものを教えて下さい。※複数選択可
0件の回答



未加入者(2023～24年度採用者)を対象としたアンケート

が声をかけることの重要性を示唆しており、周囲の組合員をいかに組織化に関わらせるかが、取り組むべき課題だと感じています。

また、人手不足のなかで若手の責任や業務量が以前よりも重くなっており、これ以上、休息时间やプライベ

ショックを受けた」との話もあります。「流暢で上手すぎる説明は逆に怖くなる」そうです。

私は、悲観する必要はなく、見ず知らずの役員でも上手く説明すれば信用は得られる、との先入観を打ち碎いてくれたと考えています。このことは、身近にいる先輩組合員

ートな時間が削られるのは勘弁してほしいとの意識の広がりも感じています。平日の昼休みや夕方方なしいが、休日くらいは休ませてほしいとの声は実際に聞こえています。

未加入者アンケートから見えてきたもの

もうひとつの側面は、組合側が若者を遠ざけている要素です。この3月に行った未加入者（会計年度任用職員、2023～24年度採用者）を対象としたアンケートにおいて、認識を改めるべき結果が出ました。設問は、選択肢から組合イメージに合致する項目を選ぶもので、ネガティブな回答が多いと想定していたのですが、それに反し「頼もしい」「ないと困る」が圧倒的に多かったのです。併せて「よく分からない」も多く、イメージが良く、頼りにもしているのに、やっていることが理解されていないことで、加入に至っていない可能性があることがわかりました。私たち役員側も、未加入者や若手組合員の意識を、先入観で決めてかかる傾向があります。

しかし、アンケート等の結果からは、自分たちの運動にもっと自信を持つべきだと思いますし、その内容をちゃんと伝える方法で、伝えていく必要があると思っています。

（かどわき しのぶ）